

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-134	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Reasons Why People Change Their Alcohol Consumption in Later Life: Findings from the Whitehall II Cohort Study. 晩年に飲酒行動が変化する理由		
執筆者		
Annie Britton, Steven Bell		
掲載誌		
PLoS One. 2015 Mar 10;10(3):e0119421. doi: 10.1371/journal.pone.0119421. eCollection 2015.		
キーワード		PMID
高齢者、飲酒量の変化、性、年齢、社会経済的地位		25756213
要 旨		
目的： 高齢者の健康を害する程の飲酒は、公衆衛生学的に重要な問題である。なぜ晩年に飲酒行動を変化させるのかを調べた研究は極めて少ない。この研究の目的は 60 歳以上の人々が過去 10 年間で飲酒行動を増やしたか減らしたかを、その理由と共に明らかにすることである。また、年齢・性・社会経済的地位によって飲酒行動に違いがあるかについても調べた。		
方法： 61～85 歳の女性 1,701 名から得たデータを解析した。社会経済的地位は市民サービスグレードを指標としてカテゴリー化した。		
結果： 対象者の半数以上が過去 10 年間で飲酒行動が変化したと答えた(減少 40%、増加 11%)。減少の理由として最多のものは、健康に対する意識の向上と付き合い飲酒の減少だった。飲酒量増加の主な理由は、付き合いの増加と社会的責任の低下だった。最も社会経済的地位が高いグループに比べて、低いグループの飲酒リスクは上昇を認めなかった(リスク比 0.57, 95%信頼区間 0.40 - 0.81)。女性は男性よりもストレスやうつを軽減させる目的で飲酒量を増加させる傾向にあった。社会経済的地位が高いグループと比較して、社会経済的地位が最も低いグループは健康意識を原因として飲酒を減らすことはなかった。70 歳以上の者は 60-69 歳の者と比べて、病気の為に飲酒量を減らすことが多かった。		
結論： 年齢、性、社会経済的地位を理由として晩年の飲酒行動は変化する。有害な飲酒を減らすための個々に応じた戦略を立てる上で、このような情報は役立つだろう。		